

とうきょうすくわくプログラム活動報告書3



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

1. 活動のテーマ 〈テーマ〉

「11ぴきのねこ」をイメージした家を作ったり、そこから遊びの流れで子どもたちが思いついたツリーハウスなどを作って楽しみ、最後は子どもがねこになりきり絵本の話の中に入り込める。

〈テーマの設定理由〉

11ぴきのねこシリーズを部屋の本棚に用意していた。それを見た子どもたちが自発的に絵本に出てくるキャラクターを描いたり、作ったりしはじめたため、その話に入り込みたいと思い遊びの展開を考えた。

2. 活動スケジュール

絵本を読み込み家づくりから始めた。子どもたちの発想で絵本にはないがツリーブロックを使ったツリーハウスが完成する。そこから画用紙をねこの耳に切り抜きねこになりきることで、絵本を楽しみ、人形にもつけて、みんなでねこの耳をつけて散歩に行き楽しんだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境設定

(活動のためにどのような環境設定したか、準備した素材や道具)

- 絵本を読む、装飾をする
- 積み木、色板、ツリーブロック、冷蔵庫、布、ラキュー、画用紙、のり、ハサミ
- 絵の具、折り紙、テープ、色鉛筆、人形、
- ねこの耳をつける

4. 探究活動の実践

〈活動の内容〉

- 積木で作りたいものをイメージして積んでいき楽しむ。
- 絵本を用意したり、そのコピーを用意しておき、子どもが作りたい気持ちになるように整え、すぐに応えられるようにしていった。

〈活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

（活動の内容、活動中見られた子供の姿、保育者との関わりなど）

「ここはこうしよう」「どうする」と大人に声をかけることもあったが、みんなで相談してみようと提案すると、どんどんアイデアが出てきて、絵本の世界があそびを通して広がっていった。

5. 振り返り

〈振り返りによって得た大人の気づき〉

最初のきっかけは大人が気づけるようにしていったが、あそびが深まってからは、子どものアイデアがたくさんあることに気づいた。子ども主導で進めるとより楽しみやすく遊びが広がると気づいた。保育士は子どもの「やりたい」にすぐに応えられるように環境を作ることが大切だと気づいた。



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん